

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年11月14日

**【四半期会計期間】** 第36期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

**【会社名】** 株式会社極楽湯

**【英訳名】** GOKURAKUYU CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 新川 隆 丈

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区麹町二丁目4番地

**【電話番号】** 03(5275)0580(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役専務執行役員管理部長 松本 俊 二

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区麹町二丁目4番地

**【電話番号】** 03(5275)0580(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役専務執行役員管理部長 松本 俊 二

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第35期 第2四半期 連結累計期間	第36期 第2四半期 連結累計期間	第35期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(千円)	4,821,688	5,588,579	10,051,440
経常利益 又は経常損失( )	(千円)	59,854	137,305	39,134
四半期(当期)純損失( )	(千円)	13,074	100,040	398,993
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	146,275	289,118	169,334
純資産額	(千円)	4,128,938	5,174,272	4,213,201
総資産額	(千円)	12,999,469	14,926,468	13,908,808
1株当たり四半期(当期)純損失金額 ( )	(円)	1.36	8.48	40.13
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	31.1	28.3	29.6
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	165,850	222,885	616,592
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	544,488	1,331,512	1,380,989
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	2,412,640	828,946	2,389,414
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,850,651	3,519,577	3,815,094

回次		第35期 第2四半期 連結会計期間	第36期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	(円)	1.27	0.92

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第35期第2四半期連結累計期間、第36期第2四半期連結累計期間及び第35期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(中国)

中国における事業展開の統括を目的に、平成26年4月に連結子会社極楽湯中国控股有限公司(香港)を設立しました。また、海外2号店の出店準備及び運営を行なうことを目的に、平成26年6月に上記の子会社として極楽湯(上海)沐浴管理有限公司を設立しました。

この結果、平成26年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社4社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

#### (1) 子会社の増資等

当社は、平成26年6月26日開催の取締役会において、当社の香港子会社である極楽湯中国控股有限公司（以下、「香港子会社」という。）の増資並びに極楽湯（上海）沐浴有限公司（当社海外1号店『極楽湯 碧雲温泉館』を運営）と極楽湯（上海）沐浴管理有限公司（当社海外2号店を運営予定）を香港子会社の子会社とすることを決議し、同年8月に極楽湯（上海）沐浴有限公司の株式の全てを現物出資いたしました。

なお、詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

#### (2) 子会社株式の一部売却

当社は、平成26年7月30日に、当社100%子会社である極楽湯中国控股有限公司（以下、「香港子会社」という。）の株式49%を当社の筆頭株主である「Harvest Premier Investment Corporation」（以下、「HPIC」という。）に譲渡（売却）する株式譲渡契約を締結（以下、「本件」という。）し、同年9月に引き渡しが完了しました。

##### 1. 目的

当社は、平成26年5月27日の「HPICとの業務資本提携に関するお知らせ」にて公表した通り、HPICとの業務資本提携を進めております。本件は、当該業務資本提携の一環であり、HPICの幅広いネットワークに加え事業資金の提供力・調達力を有効に活用することで、中国における事業展開を本格的かつ円滑に推進していくことを目的としております。

##### 2. 譲渡株式数、譲渡価額、売却益および譲渡前後の所有株式の状況

譲渡前の所有株式数	: 173,137株	当社所有割合100.0%
譲渡株式数	: 84,838株	当社所有割合の49.0%
譲渡後の所有株式数	: 88,299株	当社所有割合51.0%
譲渡価額	: 933百万円	
売却益	: 163百万円（個別）（連結業績では147百万円）	

##### 3. 香港子会社の概要

名称	: Gokurakuyu China Holdings Limited（中国語名：極楽湯中国控股有限公司）
事業内容	: 中国における事業展開の統括

##### 4. 株式譲渡の相手先の概要

名称	: Harvest Premier Investment Corporation（「HPIC」）
事業内容	: 投資持株会社（各種有価証券の投資及び売買）
当社との関係	: 当社の筆頭株主（発行済株式総数に対する所有株式数の割合18.19% 平成26年9月30日現在）であります。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費増税に伴う駆け込み需要の反動による減速から一部回復の兆しは見られたものの、その拡がりは限定的であり、原材料・エネルギーなどの諸コストの上昇に加え、更なる消費増税の議論が本格化するなど先行き不透明な状況が続いております。

温浴業界におきましては、消費者の節約志向や低価格志向が引き続きみられる一方で、ガソリンの値上がりなどにより「安・近・短」の手軽なレジャーを見直す動きもみられます。また、他社での「レジオネラ属菌」による死亡事故や「減圧室」の故障による死亡事故の発生、燃料費や人件費をはじめとする諸コストの高騰による閉店増などのイメージダウンに加え、週末の台風やゲリラ豪雨の影響による客足減など厳しい経営環境が続いております。まさに、それらの課題やお客様の多様なニーズに対応できる企業としての総合力が求められております。

このような状況の中、当社におきましては、売上高5,588百万円（前年同期比15.9%増）となりました。損益面につきましては、国内は回復途上にあるものの引き続き厳しい状況が続いている一方で、中国（海外）が大きく貢献した結果、営業損失93百万円（前年同期営業損失123百万円）、経常損失137百万円（前年同期経常損失59百万円）、四半期純損失100百万円（前年同期四半期純損失13百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりです。

##### 日本

当セグメントにおきましては、売上高4,804百万円（前年同期比6.2%増）、セグメント損失（営業損失）は139百万円（前年同期セグメント利益139百万円）となりました。

当社の業績は、お盆や年末年始の休暇等の家族や人が集まる機会や天候及び気温等に影響される傾向があり季節的な変動があります。

第2四半期（7月～9月）については、上記の季節的要因から通期でみると収益は比較的獲得できる時期ではありますが、消費増税に伴う駆け込み需要の反動に加え週末の台風やゲリラ豪雨による来店客数の減少が影響し既存店の売上高は減少しました。一方、新店（水戸店、RAKU SPA鶴見）がオープンしたことでトータルの売上高は増加しました。また、セグメント損失（営業損失）は、来店客数の減少をお客様単価の上昇や付帯サービス利用でカバーするまでに至らなかったことに加え、前年同期に比べ水道光熱費が上昇したことや新店の出店費用を計上したこともあり、第2四半期の累計期間（4月～9月）はセグメント損失が139百万円となりました。

##### 中国

当セグメントにおきましては、売上高797百万円（前年同期比167.5%増）、セグメント利益（営業利益）は128百万円（前年同期セグメント損失168百万円）となりました。

中国における業績も国内と同様に季節的な変動があり、第2四半期（4月～6月）は通期でみると業績は比較的厳しい時期と言えます。しかし、当期は上海（中国）における極楽湯ブランドが浸透している中で積極的に営業できたため、厳しい時期にも関わらず前期に比べ赤字幅は減少しました。その結果、第2四半期の累計期間（1月～6月）では、特に春節（旧正月である2月上旬）期間の業績が好調であったことに加え、収益計上期間が6ヶ月（前年同期は約5ヶ月）とフルに寄与したため、売上、利益ともに大幅に改善いたしました。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,017百万円増加し14,926百万円となりました。これは主に、新店の出店により有形固定資産が1,053百万円増加したことによるものであります。

次に、負債合計は、前連結会計年度末に比べ56百万円増加し9,752百万円となりました。これは主に、新店の工事完成による建築代金の支払いにより未払金が535百万円減少した一方で、前連結会計年度末に締結したシンジケート・ローンを実行し長期借入金が増加したことによるものであります。

最後に、純資産合計は、前連結会計年度末に比べ961百万円増加し5,174百万円となりました。これは主に、9月に香港子会社の持分を一部売却（49%）したことにより少数株主持分が899百万円増加したことによるものであります。また、自己資本比率につきましては、28.3%となりました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は3,519百万円（前年同四半期は3,850百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、222百万円（前年同四半期は165百万円の使用）となりました。これは主に減価償却費373百万円、子会社株式売却益147百万円によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,331百万円（前年同四半期は544百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,040百万円、子会社株式の売却による収入933百万円によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、828百万円（前年同四半期は2,412百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入れによる収入1,550百万円、長期借入金の返済による支出1,050百万円、株式の発行による収入411百万円によるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりです。

当社は、企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、又は向上させることを目的とし、当社取締役会の事前の賛同を得ずに行われる当社株式等の大規模な買付行為に対する対応策（以下、「旧プラン」という。）を平成18年5月26日の取締役会において導入しておりますが、平成25年12月20日の取締役会において、更新（以下、「本プラン」という。）しております。

#### [ 当社の株主共同の利益の確保及び向上に関する取組み ]

当社は、「人と自然を大切に思い、人の心と体を『癒』すことにより、地域社会に貢献することで、自己の確立と喜びを感じる企業でありたい」という経営理念のもと、「極楽湯」という大規模温浴施設を全国的に展開し、「極楽湯」が地域社会における新しいコミュニティシンボルとして、多くのお客様に高水準の「健康」と「癒し」を提供し続けることを目指し、事業展開を行なっております。

具体的には、以下の5項目を基本方針として策定しております。

1. 温浴施設「極楽湯」において、時代の変化や顧客ニーズを的確に捉えた、質の高いサービスを提供することで、顧客満足を高め、企業としての適切な利益を安定的に獲得する
2. あらゆるステークホルダーを重視した経営を行い、その健全な関係の維持・発展に努める
3. 各地域の文化や慣習を尊重し、地域に根ざした企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献する
4. 「開かれた企業経営体質」を基本に、危機管理体制の構築と法令遵守を徹底する
5. ホスピタリティ、チャレンジ精神、経営マインドを持った人材を育成する

上記の経営理念のもと、スーパー銭湯のパイオニアとして確立してきたビジネスモデルを持つ当社を経営するにあたっては、“お風呂”を日本の文化と捉え、その文化を継承・発展させていくことに対する真摯な気持ち、温浴事業に対する高度な専門知識や豊富な経験、並びに当社をとりまくあらゆるステークホルダーとの間に築かれた信頼関係が不可欠であり、このような様々な要素が、当社の企業価値の源泉となるとともに、株主の皆様のご共同利益を図っているものと考えております。

当社取締役会は、当社における上記のような事情を踏まえ、当社株式等の大規模な買付行為が行われた場合に、株主の皆様が対応方法を検討するために十分な時間と情報を確保することができるよう、合理的なルールを設定させていただくことが、株主共同の利益に資すると考え、本プランを定めております。

#### [ 本プラン継続目的 ]

当社は、上場会社として、当社株式の売買は原則として市場における株主及び投資家の皆様の判断に委ねるべきものと考えており、当社株式を取得することにより当社の経営支配権を獲得しようとする者に対して当社株式の売却を行うか否かについても、最終的には当社株式を保有する株主の皆様のご判断によるものと考えております。また、当社は、特定の株主のグループが当社の経営支配権を取得することになったとしても、そのこと自体により直ちに株主共同の利益が害されるということはなく、反対に、それが結果的に当社の株主共同の利益の最大化

に資することもあり得るため、そのような場合であれば、特定の株主のグループが当社の経営支配権を取得することを拒むものではありません。

しかしながら、当社株式を大規模に買付け、当社の経営支配権を獲得しようとする者の中には、真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、ただ株価をつり上げて、高値で株式等を会社関係者に引き取らせる目的で買付けを行う者（いわゆるグリーンメイラー）等典型的に濫用目的を持って当社株式を取得しようとしていると考えられる者や、最初の買付けで全株式の買付けの勧誘をすることなく、二段階目の買付条件を不利に（あるいは明確にしないで）設定し、買付けを行うことにより、当社株主の皆様が事実上売却を強要しようとする者（いわゆる二段階強圧的買収）等が含まれていることも考えられます。また、前記のような、株主共同の利益を害する態様による買付行為に当たらない場合であっても、ある程度の経営支配権の移動が生じ得る場面において、ある買付行為に応じて当社株式を売却するか否かの決断を株主の皆様がするにあたっては、必要十分な情報の提供と一定の検討期間が与えられた上で熟慮に基づいた判断（インフォームド・ジャッジメント）を行うことができるような態勢を確保することが、株主共同の利益に資するものと考えます。

当社は、当社が把握している直近の当社株主名簿及び当社が現時点において受け取っている大量保有報告書及び変更報告書において、当社の経営支配権を獲得しようとしているか否かに関わらず、本プランの適用の可能性があるような当社株式を大規模に買付け、又は買付けようとする者の存在を特に認識しておりませんが、将来において、そのような者が登場することはあり得るところであると考えます。そこで、前記のような観点から、株主共同の利益を害することが明白な買付行為から当社の株主共同の利益を保護し、かつ、当社の株主の皆様が、経営支配権の移動が生じ得る場面において、ある買付行為に応じて当社株式を売却するか否かを判断するにあたってインフォームド・ジャッジメントを行うことができるよう、旧プランの内容を一部変更し、本プランとして継続するものであります。

#### [ 本プランの内容 ]

##### < 本プラン適用の要件 >

本プランは、特定株主グループ(注)1の議決権割合(注)2を20パーセント以上とすることを目的とする当社株券等(注)3の買付行為又は結果として特定株主グループの議決権割合が20パーセント以上となるような買付行為（以下、総称して「大規模買付行為」といいます。なお、当社取締役会が事前に賛同の意思を表明した買付行為については、これには当たらないこととします。）に対して、適用されるものとします。

本プランが適用される場合、大規模買付行為を行おうとする者（以下「大規模買付者」といいます。）は、本プランに定められた大規模買付行為に関するルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を遵守しなければならないものとします。

大規模買付ルールとは、事前に大規模買付者から当社取締役会に対して十分な情報を提供し、当社取締役会による一定の評価期間が経過した後大規模買付行為を開始する、というものです。

- (注)1「特定株主グループ」とは、当社の株券等（金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。）の保有者（同法第27条の23第1項に規定する保有者をいい、同条第3項に基づき保有者に含まれる者を含みます。）及びその共同保有者（同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされる者を含みます。）、又は当社の株券等（同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。）の買付け等（同法第27条の2第1項に規定する買付け等をいい、取引所有価証券市場において行われるものを含みます。）を行う者及びその特別関係者（同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。）を意味し、以下同じとします。
- 2「議決権割合」とは、特定株主グループが、前記(注)1の記載に該当する場合は、当社の株券等の保有者の株券等保有割合（金融商品取引法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株券等の数（同項に規定する保有株券等の数をいいます。）も計算上考慮されるものとします。）をいい、特定株主グループが、前記(注)1の記載に該当する場合は、当社の株券等の買付け等を行う者及びその特別関係者の株券等所有割合（同法第27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。）の合計をいい、以下同じとします。
- 3「株券等」とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等又は同法第27条の2第1項に規定する株券等のいずれかに該当するものを意味し、以下同じとします。

##### < 大規模買付ルールの内容 >

- ( a . 必要十分な情報の提供 )

大規模買付ルールが適用される場合、大規模買付者は、まず、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び大規模買付者の行う大規模買付行為（以下「買付提案」といいます。）の概要並びに大規模買付ルールを遵守する旨を記載した意向表明書を当社取締役会に提出しなければならないものとします。

当社取締役会がかかる意向表明書を受領した後5営業日以内に、大規模買付者に対し当社取締役会が大規模買付者に提出を求める、大規模買付者自身及び買付提案に係る情報（以下「必要情報」といいます。）を以下の1乃至6に規定する大項目からなるリスト（以下「必要情報リスト」といいます。）として交付します。大規模買付者は、必要情報リストに記載された必要情報を書面にて当社取締役会に提出しなければならないものとします。

当社取締役会は、提出を受けた必要情報のうち、株主の皆様のインフォームド・ジャッジメントに資するものと判断した情報については、適宜、当社取締役会が適当であると判断する方法により、これを株主の皆様に開示するものとします。

1. 大規模買付者及びそのグループに関する事項
2. 当社株券等の取引状況
3. 買付提案の買付条件
4. 当社株券等の取得対価の算定根拠
5. 資金の裏付け
6. 当社株券等を取得した後の経営方針及び事業計画等

当社取締役会は、弁護士、公認会計士及び投資銀行等の公正な外部専門家の意見も参考にして必要情報を精査し、大規模買付者から提出された必要情報が必要情報リストの要件を満たすものであり、かつ、株主の皆様のインフォームド・ジャッジメントのために必要十分なものとなっているか否かについて判断するものとします。

当社取締役会は、大規模買付者から提出された必要情報が必要情報リストの要件を満たすものであり、かつ、株主の皆様のインフォームド・ジャッジメントのために必要十分なものとなっていると判断した場合、速やかに、必要情報の提供があった旨を取締役会が適当であると判断する方法により公表するとともに大規模買付者に対し通知し、かかる公表を行った日をもって、検討期間の開始日（以下「検討期間開始日」という。）とします。

これに対し、当社取締役会は、大規模買付者から提出された必要情報が、必要情報リストの要件を満たしていないと判断した場合、又は、株主の皆様のインフォームド・ジャッジメントのために必要十分なものとなっていないと判断した場合、大規模買付者に対して、必要情報リストの要件を満たすために改めて提出することが必要な情報及び株主の皆様のインフォームド・ジャッジメントのために必要な情報（以下、総称して「必要的追加情報」といいます。）を提出するよう大規模買付者に求めることができるものとします。この場合、当社取締役会が、大規模買付者により、かかる必要的追加情報の提出がなされたと判断した場合、当社取締役会が適当であると判断する方法により公表することとし、かかる公表を行った日をもって検討期間開始日とするものとします。

なお、大規模買付者から提出された必要情報又は必要的追加情報に、重大な虚偽の記載が含まれていた場合には、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合と同様の措置をとることができるものとします。

#### （b. 検討期間）

大規模買付者は、前記の検討期間開始日を起算日として、当社取締役会が、買付者からの情報を検討した上、場合によっては買付提案に対する代替案を提示し、又は、株主の皆様が買付提案に応じて当社株券等を売却するか否かのインフォームド・ジャッジメントを行うための期間として、一定の検討期間を設けなければならないものとします。

大規模買付者は、かかる検討期間の末日の翌日から、大規模買付行為を開始することができるものとします。

具体的な検討期間については、買付提案の評価等の難易に応じ、以下のとおりとします。但し、当社取締役会は、大規模買付者及び買付提案の内容に照らし、検討期間を以下の(イ)又は(ロ)の期間よりも短縮することが妥当であると判断した場合、当社取締役会の裁量により、検討期間を短縮することができるものとします。

(イ) 現金(円貨)のみを対価とする、当社の発行済全株式を対象とする公開買付け：60日間

(ロ) 前記(イ)以外の全ての大規模買付行為：90日間

#### （c. 買付提案が変更された場合）

検討期間開始日以降に、買付提案に重要な変更があった場合（かかる変更後の買付提案を、以下「変更買付提案」といいます。）、当社取締役会は、弁護士、公認会計士及び投資銀行等の公正な外部専門家の意見も参考にして、変更買付提案が変更前の買付提案と比較して当社又は株主の皆様にとって実質的に不利益なものでないか否かを判断するものとします。

当社取締役会が、変更買付提案が変更前の買付提案と比較して当社又は株主の皆様にとって実質的に不利益なものであると判断した場合、大規模買付者は、変更買付提案に係る必要情報（変更前の買付提案と比較して実質的に不利益となった部分に係る必要情報に限るものとします。）を当社に対して提出しなければならず、当社取締役会が変更買付提案の提出があった旨を公表した日を新たな検討期間開始日として、前記b.に従った検討期間を設けなければならないものとします。

これに対し、当社取締役会が、変更買付提案が変更前の買付提案よりも当社又は株主の皆様にとって実質的に不利益なものではないと判断した場合、従前の検討期間開始日を起算点とした検討期間が引き続き存続するものとします。

（d. 大規模買付ルールが遵守された場合）

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守して、必要情報（及び必要的追加情報）を提出し、かつ、検討期間の猶予を設けた場合には、当社取締役会は、大規模買付者又は買付提案が以下の各号に定めるいずれかに該当する場合でない限りは、仮に、当社取締役会が、買付提案に反対であったとしても、反対意思の表明、代替案の提示、株主の皆様に対する説得行為等を行うにとどめ、本プランに定める対抗措置の発動は行わないものとします。

真に当社の会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、当社株式の株価を釣り上げて高値で当社株券等を当社の関係者に引き取らせる目的で大規模買付行為を行っている場合（いわゆるグリーンメイラー）

当社の経営を一時的に支配して当社の事業経営上必要な知的財産権、ノウハウ、企業秘密情報、主要取引先や顧客等を大規模買付者又は特定株主グループに移譲させる目的で大規模買付行為を行っている場合

当社の経営を支配した後に当社の資産を大規模買付者や特定株主グループの債務の担保や弁済原資として流用する予定で大規模買付行為を行っている場合

当社の経営を一時的に支配して当社の事業に当面関係していない不動産、有価証券など高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って当社株券等の高値売り抜けをする目的で大規模買付行為を行っている場合

最初の買付けで全株式の買付けの勧誘をすることなく、二段階目の買付条件を不利に（あるいは明確にしない）で設定し、買付けを行うことにより、株主の皆様が事実上 売却を強要する結果となっている場合（いわゆる二段階強圧的買収）

（e. 対抗措置の発動）

大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合、又は、ルールを遵守した場合でも、当社取締役会が、弁護士、公認会計士及び投資銀行等の公正な外部専門家の意見も参考にして、大規模買付者若しくは買付提案が、前項d.の 乃至 のいずれかに該当する場合、当社取締役会の決議により、直ちに対抗措置を発動することができるものとします。

当社取締役会は、上記決議を行った場合、当該決議の概要、前項d.の 乃至 のいずれかに該当すると判断した事由及びその他当社取締役会が適切と判断する事項について、速やかに情報開示を行います。

（f. 対抗措置の内容）

当社取締役会は、対抗措置として、新株予約権の無償割当てをはじめとし、その時点の法令及び当社定款が当社取締役会の権限として認める行為を行います。具体的な対抗措置の種類及びその条件については、その時点で相当と認められるものを選択します。

但し、当社取締役会は、対抗措置の発動後であっても、大規模買付者が必要十分な必要情報の提供を行ったこと又は買付提案を変更したこと等により、大規模買付行為が、当社の株主共同の利益の向上に資するものとなったと判断した場合、並びに、大規模買付者が大規模買付行為を撤回したことにより、対抗措置の発動の必要がなくなった場合等には、法令により許容される方法により、対抗措置をとり止めることができるものとします。

なお、対抗措置として新株予約権の無償割当てが行われる場合に株主の皆様が割当てられる新株予約権の概要は、以下のとおりとします。

〔新株予約権の概要〕

対抗措置として、新株予約権の無償割当てが行われる場合に株主の皆様が割当てられる新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）の概要は以下の各号に規定するとおりです。なお、以下の各号に規定する概要は、本新株予約権の割当てが行われる際の状況により、変更されることがあるものとします。



#### 本新株予約権の割当ての対象となる株主等

当社取締役会は、本新株予約権の割当てを決定した場合、直ちに、会社法第124条に基づく基準日（以下「割当基準日」といいます。）の設定を行います。かかる基準日における最終の株主名簿に記録された株主に対し、その所有株式1株につき1個の割合で本新株予約権を割当てます。

#### 本新株予約権の総数

割当基準日における最終の発行済株式総数から、同日において、当社の保有する自己株式を除いた数を上限とします。

#### 本新株予約権の割当てが効力を生じる日

本新株予約権の割当てが効力を生じる日については、当社取締役会にて別途定めるものとします。

#### 本新株予約権の目的となる株式の種類及び数

本新株予約権の目的となる株式の種類は当社普通株式とし、本新株予約権1個当たりの目的となる当社普通株式の数は1株とします。但し、当社が株式の分割又は併合等を行う場合には、当社取締役会が新株予約権無償割当て決議によって定める調整式による調整を行うものとします。

#### 本新株予約権の行使に際して払込みをなすべき額

本新株予約権の行使により交付される当社普通株式1株あたりの払込金額は1円以上で当社取締役会が定める額とします。

#### 本新株予約権の行使条件

大規模買付者及びその特定株主グループ並びに大規模買付者及びその特定株主グループから当社取締役会の承認を得ずに本新株予約権を取得又は承継した者は、本新株予約権を行使できないものとします。

#### 本新株予約権の譲渡

本新株予約権の譲渡には、当社取締役会の承認を要するものとします。

#### 本新株予約権の行使期間

新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が定める日を初日とし、2か月間までの範囲で新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が定める期間とします（以下「行使期間」といいます。）。但し、行使期間の最終日が払込取扱場所の休業日に当たるときは、その翌営業日を最終日とします。

#### 本新株予約権の取得条項

本新株予約権には、行使期間開始日前日までの当社取締役会が別途定める日の到来をもって、当社が、全ての本新株予約権を無償で取得することができる旨の条項（取得条項）を付する場合がありますものとします。

また、本新株予約権には、一定の事由が生じたことを条件として、当社が、当社普通株式を取得対価として本新株予約権を取得することができる旨の条項（取得条項）を付する場合がありますものとします。

#### 本新株予約権に係る新株予約権証券の発行

新株予約権証券は、新株予約権者の請求がある場合に限り発行するものとします。

#### その他

その他必要な事項については、新株予約権無償割当て決議において当社取締役会が定めるものとします。

#### [株主及び投資家の皆様に与える影響等]

<本プランの導入時において株主及び投資家の皆様に与える影響>

本プランは、導入時点において新株予約権の無償割当て等を行うものではありませんので、導入時点において株主及び投資家の皆様の権利関係に影響はございません。

<対抗措置の発動時において株主及び投資家の皆様に与える影響>

対抗措置の発動として、本新株予約権の割当てがなされた場合には、割当基準日の最終の株主名簿に記録された株主の皆様に対して、その保有株式数に応じて本新株予約権が割当てられることとなります。

割当てを受けた株主様が、所定の権利行使期間内に、権利行使のために必要な行為を取らなかった場合、他の株主の皆様による本新株予約権の行使により議決権比率が低下することとなります（但し、当社普通株式を取得対価とした取得条項に基づく取得の結果として当社普通株式が交付される場合には、こうした議決権比率の低下は生じないこととなります。）。

なお、当社は、本プランにおける対抗措置の発動に係る手続きの過程において、株主の皆様に必要な情報を開示しますが、本新株予約権無償割当て決議がなされた場合、及び本新株予約権無償割当てを実施したにもかかわらず

ず、例えば、大規模買付者が買付を撤回した等の事情により、本新株予約権の行使期間開始日前日までに、当社が本新株予約権者に当社株式を交付することなく無償で本新株予約権を取得する場合には、1株当たりの株式の価値の希薄化が生じることを前提にして売却等を行った株主の皆様は、株価の変動により相応の損害を被る可能性があります。

< 対抗措置の発動時において株主の皆様に必要な手続 >

対抗措置の発動として、無償割当てによる本新株予約権の割当てがなされる場合、前記のとおり、割当基準日を公告し、割当基準日における株主の皆様には本新株予約権が無償にて割当てられますので、株主の皆様におかれましては、速やかに株式の名義書換手続を行っていただく必要があります（証券保管振替機構をご利用の株主様については、名義書換手続は不要です。）。新株予約権の無償割当てにおいては、株主の皆様の申込みの手続は不要であり、割当基準日における最終の株主名簿に記録された株主の皆様は、本新株予約権無償割当ての効力発生日において、当然に新株予約権者になられます。

なお、対抗措置として、株主割当てによる新株予約権の発行がなされる場合は、当社又は当社の証券代行事務会社より、割当基準日現在の株主の皆様に対して、新株予約権申込書が送付されます。新株予約権の割当てを希望される株主の皆様は、新株予約権申込書に必要な事項を記入の上で申し込み、新株予約権証券を受け取り、新株予約権を行使していただくことになります。

[ その他 ]

・本プランは、買収防衛策に関する指針の要件をすべて充足しております。

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性確保の原則）を全て充足しています。また、平成20年6月30日付の経済産業省企業価値研究会「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」も踏まえた内容になっています。

・本プランは、デッドハンド型及びスローハンド型買収防衛策ではありません。

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により、いつでも廃止することができるものとされており、当社の株式を大量に買付けようとする者が、自己の指名する取締役を当社株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。

従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は取締役の任期を2年としておりますが、当該任期につきましては期差任期制を採用していないため、スローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

・本プランの有効期限、継続及び改廃

本プランは、当社取締役会において、本プランを継続するか否か及び継続とした場合その内容について検討し、決定することといたします。有効期限は、発効から最長3年とし平成28年12月20日までに開催予定の当社取締役会終結の時までとします。

また、本プランは、当社取締役会において継続が決議された後であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合、当社の株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

また、本プランの有効期間中であっても、当社取締役会は、企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から随時見直しを行い、本プランの変更を行うことがあります。このように、本プランについて継続、変更、廃止等の決定を行った場合、当社取締役会は、その内容につきまして速やかに開示いたします。

なお、当社取締役会は、本プランの有効期間中であっても、本プランに関する法令、当社が上場する金融商品取引所の規則等の新設または改廃が行われ、かかる新設または改廃を反映するのが適切である場合、誤字脱字等の理由により字句の修正を行うのが適切である場合等、株主の皆様にも不利益を与えない場合には、本プランを修正または変更する場合があります。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,500,000
計	36,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,215,600	13,368,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。 株主としての権利内容に制限の ない、標準となる株式。
計	13,215,600	13,368,400		

(注) 提出日現在発行数には、平成26年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

当第2四半期会計期間において発行した新株予約権は、次のとおりであります。

###### 2014年度株式報酬型

決議年月日	平成26年6月26日定時株主総会決議及び平成26年6月26日取締役会決議
新株予約権の数(個)	451
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	45,100(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	(注)2
新株予約権の行使期間	平成26年7月12日～平成46年7月11日(注)3
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 366 資本組入額 183(注)4
新株予約権の行使の条件	(注)5
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)8
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)9

(注) 1 新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数(以下、「付与株式数」という。)は100株とする。

なお、当社が当社普通株式につき、株式分割(当社普通株式の無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。)または株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整するものとし、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

##### 2 新株予約権行使に際して出資される財産の価額

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。

##### 3 新株予約権を割り当てる日(以下「割当日」という)

平成26年7月11日

- 4 新株予約権の払込金額の算定方法およびその払込の方法  
各新株予約権の払込金額は、割当日においてブラック・ショールズ・モデルにより算出した1株当たりのオプション価格に付与株式数を乗じた金額（公正価額）とする。  
なお、会社法第246条第2項の規定に基づき、金銭の払込に代えて、新株予約権者が当社に対して有する報酬債権と相殺するものとする。したがって、新株予約権と引き換えの金銭の払い込みはこれを要しない。
- 5 新株予約権行使の条件  
新株予約権の割り当てを受けた者（以下「新株予約権者」という。）は、割当日の翌日から3年を経過する日まで原則として新株予約権を行使できないものとする。  
上記に関わらず任期満了による退任その他正当な理由に基づき当社の取締役の地位を喪失した場合（かかる地位の喪失を以下「退任」という。）は、原則として退任の日から5年以内に新株予約権を行使しなければならない。行使期間については、上記「新株予約権の行使期間」に定める期間を超えることはできない。  
新株予約権を行使することができる期間の満了前に新株予約権者が死亡した場合は、相続人のうち1名に限り、下記の新株予約権割当契約書の定めるところに従い新株予約権を承継することができる（当該相続により新株予約権を相続した者を「権利承継者」という。）。権利承継者が死亡した場合、権利承継者の相続人は新株予約権を承継することができないものとする。権利承継者による新株予約権の行使の条件は、下記の新株予約権割当契約書に定めるところによる。  
その他の条件については、当社取締役会の決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結される新株予約権割当契約書に定めるところによる。
- 6 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げるものとする。  
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記記載の資本金等増加限度額から上記に定める増加する資本金の額を減じた額とする。
- 7 新株予約権の取得事由  
当社は、以下の場合に、新株予約権を無償で取得することができるものとする。  
新株予約権者が、権利を行使する条件に該当しなくなった場合または権利を放棄した場合  
会社法、金融商品取引法、税法等の関係法令および諸規則等の制定または改廃等が行われた場合において、当社の取締役会において新株予約権の無償での取得が決議された場合  
当社が他社との合併、会社分割、その他会社法等で定められた組織変更等を行う場合において、当社の取締役会において新株予約権の無償での取得が決議された場合  
新株予約権者に以下に定める事由が生じた場合において、当社の取締役会において新株予約権の無償での取得が決議された場合  
イ 会社法に定める取締役の欠格事由に該当した場合  
ロ 当社の取締役を解任された場合  
ハ 当社または当社の子会社もしくは関連会社のインサイダー取引防止規程に違反した場合  
ニ 新株予約権割当契約書の規定に違反した場合  
ホ その職務に関し注意義務に違反する行為を行い、当社または当社の子会社もしくは関連会社に著しい損害を与えた場合  
ヘ 当社または当社の子会社もしくは関連会社の信用を著しく毀損する行為を行った場合  
上記のほか、当社は、いつでも、取締役会決議により、新株予約権の全部または一部を買入れ、または無償で取得することができるものとする。
- 8 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要するものとする。
- 9 組織再編行為時における新株予約権の取扱い  
以下の、またはの議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要な場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当該組織再編の比率に応じて、以下に定める株式会社の新株予約権を交付するものとする。  
当社が消滅会社となる合併契約承認の議案  
存続会社（吸収合併の場合）または新設会社（新設合併の場合）  
当社が分割会社となる分割契約または分割計画承認の議案  
吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部または一部を継承する株式会社（吸収分割の場合）または新設分割により設立する株式会社（新設分割の場合）  
当社が完全子会社となる株式交換契約または株式移転計画承認の議案  
株式交換をする株式会社の発行株式数の全部を取得する株式会社または株式移転により設立する株式会社
- 10 新株予約権証券  
新株予約権に係る新株予約権証券は発行しない。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日(注)1	58,200	13,215,600	7,974	2,291,118	7,974	1,937,718

(注)1 新株予約権の行使による増加であります。

2 平成26年10月1日から平成26年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が152,800株、資本金が20,169千円及び資本準備金が20,169千円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
Harvest Premier Investment Corporation (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	6 SHENTON WAY DBS BUILDING TOWER ON E SINGAPORE 0 68809	2,403	18.19
ホスピタリティファンド1号投資事業組合	東京都千代田区平河町2丁目5-7 ヒルクレスト平河町1階	1,000	7.57
新川 隆丈	東京都世田谷区	659	4.99
アサヒビール株式会社	東京都墨田区吾妻橋1丁目23-1	500	3.78
株式会社恒成商事	宮城県多賀城市町前1丁目2-5	370	2.80
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命証券管理部内	230	1.74
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	204	1.54
極楽湯役員持株会	東京都千代田区麹町2丁目4 麹町鶴屋八幡ビル6階	191	1.45
BNP - PARIBAS SECURITIE S SERVICES PARIS / JAS DEC NO TREATY (常任代理人香港上海銀行東京支店)	3 RUE D'ANTIN 75002 PA RIS	125	0.95
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目 1-1	115	0.87
計	-	5,799	43.88

(注)上記のほか当社所有の自己株式917千株(6.94%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 917,600		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,295,700	122,957	同上
単元未満株式	普通株式 2,300		同上
発行済株式総数	13,215,600		
総株主の議決権		122,957	

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社極楽湯	東京都千代田区麹町 二丁目4番地	917,600		917,600	6.94
計		917,600		917,600	6.94

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、UHY東京監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,868,094	3,651,238
売掛金	108,104	107,285
未収入金	11,359	15,571
たな卸資産	40,382	72,329
繰延税金資産	49,265	44,334
その他	213,816	269,783
流動資産合計	4,291,021	4,160,543
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,459,495	7,872,668
工具、器具及び備品（純額）	279,076	394,841
リース資産（純額）	4,602	2,960
土地	182,051	182,051
建設仮勘定	1,488,540	15,172
有形固定資産合計	7,413,766	8,467,694
無形固定資産		
その他	208,347	230,933
無形固定資産合計	208,347	230,933
投資その他の資産		
投資有価証券	28,950	28,825
長期貸付金	94,248	86,210
繰延税金資産	523,559	458,941
敷金及び保証金	792,844	860,664
その他	560,570	637,154
貸倒引当金	4,500	4,500
投資その他の資産合計	1,995,672	2,067,296
固定資産合計	9,617,787	10,765,924
資産合計	13,908,808	14,926,468

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	307,243	268,602
短期借入金	-	100,000
1年内償還予定の社債	115,800	115,800
1年内返済予定の長期借入金	2,020,828	2,134,548
未払金	868,053	332,785
未払法人税等	39,307	27,403
前受金	810,605	723,042
賞与引当金	52,609	59,292
その他	316,523	345,668
流動負債合計	4,530,971	4,107,142
固定負債		
社債	342,900	285,000
長期借入金	4,091,248	4,476,544
退職給付に係る負債	88,490	93,668
資産除去債務	358,962	456,176
その他	283,035	333,664
固定負債合計	5,164,636	5,645,052
負債合計	9,695,607	9,752,195
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,061,053	2,291,118
資本剰余金	2,171,953	2,337,156
利益剰余金	67,278	167,318
自己株式	356,138	356,138
株主資本合計	3,809,590	4,104,817
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	999	1,124
為替換算調整勘定	308,966	120,013
その他の包括利益累計額合計	307,967	118,888
新株予約権	95,643	50,955
少数株主持分	-	899,610
純資産合計	4,213,201	5,174,272
負債純資産合計	13,908,808	14,926,468

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	4,821,688	5,588,579
売上原価	4,549,446	5,189,736
売上総利益	272,241	398,842
販売費及び一般管理費	395,304	492,575
営業損失( )	123,063	93,732
営業外収益		
受取利息	5,303	8,462
受取家賃	9,514	9,446
為替差益	56,688	-
協賛金収入	15,047	18,518
その他	14,418	17,110
営業外収益合計	100,973	53,538
営業外費用		
支払利息	31,227	49,148
為替差損	-	38,376
その他	6,537	9,585
営業外費用合計	37,764	97,110
経常損失( )	59,854	137,305
特別利益		
新株予約権戻入益	81,356	4,658
子会社株式売却益	-	147,920
その他	29	-
特別利益合計	81,386	152,579
特別損失		
固定資産除却損	6,938	1,186
その他	48	-
特別損失合計	6,986	1,186
税金等調整前四半期純利益	14,545	14,087
法人税、住民税及び事業税	33,474	45,547
法人税等調整額	5,854	68,580
法人税等合計	27,619	114,127
少数株主損益調整前四半期純損失( )	13,074	100,040
四半期純損失( )	13,074	100,040

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	13,074	100,040
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,845	125
為替換算調整勘定	157,503	188,953
その他の包括利益合計	159,349	189,078
四半期包括利益	146,275	289,118
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	146,275	289,118
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	14,545	14,087
減価償却費	330,985	373,490
退職給付引当金の増減額(は減少)	4,719	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	5,177
賞与引当金の増減額(は減少)	3,423	6,759
受取利息及び受取配当金	5,303	9,547
子会社株式売却損益(は益)	-	147,920
新株予約権戻入益	81,356	4,658
支払利息及び社債利息	33,556	53,106
為替差損益(は益)	111,587	34,554
固定資産除売却損益(は益)	6,938	1,186
売上債権の増減額(は増加)	12,894	76,646
たな卸資産の増減額(は増加)	8,140	32,613
未払消費税等の増減額(は減少)	108,740	64,514
仕入債務の増減額(は減少)	8,295	35,687
建設協力金の賃料相殺	14,658	15,324
その他	47,896	25,273
小計	50,400	235,854
利息及び配当金の受取額	2,101	6,545
利息の支払額	36,414	49,968
法人税等の支払額	181,938	36,078
法人税等の還付額	-	66,531
営業活動によるキャッシュ・フロー	165,850	222,885
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	67,000	341,798
定期預金の払戻による収入	64,000	259,408
有形固定資産の取得による支出	646,997	2,040,395
投資有価証券の売却等による収入	48,980	-
差入保証金の差入による支出	-	70,537
差入保証金の回収による収入	53,461	752
貸付けによる支出	-	352,026
貸付金の回収による収入	7,869	360,064
建設協力金の支払による支出	-	67,321
建設協力金の回収による収入	5,775	5,775
子会社株式の売却による収入	-	933,215
その他	10,577	18,647
投資活動によるキャッシュ・フロー	544,488	1,331,512

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	500,000	100,000
社債の発行による収入	341,333	-
社債の償還による支出	67,400	57,900
長期借入れによる収入	3,710,000	1,550,000
長期借入金の返済による支出	1,002,100	1,050,984
株式の発行による収入	19,389	411,084
配当金の支払額	57,457	64,600
その他	31,124	58,654
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,412,640	828,946
現金及び現金同等物に係る換算差額	60,515	15,834
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,762,816	295,516
現金及び現金同等物の期首残高	2,087,834	3,815,094
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,850,651	3,519,577

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

中国における事業展開の統括を目的に、平成26年4月に連結子会社極楽湯中国控股有限公司(香港)を設立しました。また、海外2号店の出店準備及び運営を行なうことを目的に、平成26年6月に上記の子会社として極楽湯(上海)沐浴管理有限公司を設立しました。

この結果、第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
商品	29,496千円	31,150千円
貯蔵品	10,885千円	41,178千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
役員報酬	64,000千円	64,300千円
給料手当	98,623千円	120,053千円
賞与引当金繰入額	19,357千円	26,005千円
退職給付費用	3,587千円	3,330千円
法定福利費	22,218千円	27,292千円
広告宣伝費	3,031千円	2,148千円
減価償却費	13,936千円	19,580千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
現金及び預金	3,903,651千円	3,651,238千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	53,000千円	131,660千円
現金及び現金同等物	3,850,651千円	3,519,577千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	57,547	6	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	64,861	6	平成26年3月31日	平成26年6月27日	資本剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

新株予約権の行使により、当第2四半期連結累計期間において資本金が230百万円、資本剰余金が230百万円、それぞれ増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金は2,291百万円、資本剰余金は2,337百万円となっております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

極楽湯中国控股有限公司(以下、「香港子会社」)

中国における事業展開の統括

極楽湯(上海)沐浴有限公司(以下、「上海子会社A」)

温浴施設の運営・管理

企業結合日

平成26年8月29日

企業結合の法的形式

当社が保有する上海子会社Aの株式100%を香港子会社へ現物出資

その他の取引に関する概要

海外拠点の統括会社である香港子会社に、日本と中国を結ぶゲートウェイとして、また当社の中国での事業展開をより迅速かつ円滑に推進する重要な役割と機能を持たせることを目的としております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日公表分)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	四半期連結損益 計算書計上額
	日本	中国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,523,695	297,992	4,821,688		4,821,688
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	4,523,695	297,992	4,821,688		4,821,688
セグメント利益又は損失( )	139,519	168,260	28,741	94,322	123,063

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用 94,322千円であり、当該全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3 報告セグメント「中国」の連結子会社の決算日は12月31日であるため、当第2四半期連結累計期間には、平成25年1月1日から平成25年6月30日までの業績が反映されております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	四半期連結損益 計算書計上額
	日本	中国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,791,507	797,072	5,588,579		5,588,579
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,201		13,201	13,201	
計	4,804,708	797,072	5,601,780	13,201	5,588,579
セグメント利益又は損失( )	139,108	128,717	10,390	83,342	93,732

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去10,705千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 94,047千円であり、当該全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 報告セグメント「中国」の連結子会社の決算日は12月31日であるため、当第2四半期連結累計期間には、平成26年1月1日から平成26年6月30日までの業績が反映されております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間からセグメント利益又は損失の調整額に含める全社費用項目の見直しを行っております。

なお、当第2四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成しており、前連結会計年度の第2四半期連結累計期間に開示したセグメント情報の利益又は損失の算定方法との間に相違が見られます。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額( )	1円36銭	8円48銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額( )(千円)	13,074	100,040
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額( )(千円)	13,074	100,040
普通株式の期中平均株式数(株)	9,611,620	11,791,591
希薄化効果を有しないため潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月14日

株式会社極楽湯  
取締役会 御中

UHY東京監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 谷田修一 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 片岡嘉徳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社極楽湯の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社極楽湯及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。